

# 令和3年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：留萌地区
- 2 事例報告学校名：苫前町立苫前小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 熊倉 一弘
- 4 キーワード：育てたい資質・能力の明確化と具現化、学校と地域との目標の共有化

## 1 はじめに

本校は留萌管内の中部に位置し、今年で138周年を迎える。かつて鯨漁が盛んだった昭和32年には500名を超えた児童数は、減少化が進み平成9年には100名を切り、今年度は全校児童数66名である。苫前地区は夕日を望む日本海と豊かな森林に囲まれており、本校は農業や漁業体験など、地域のよさを生かした教育活動を進めている。

学習指導要領では、学校教育を通じてよりよい社会を創るために「社会に開かれた教育課程」の実現を目指している。そのために、「教育課程を介してその目標を社会と共有すること」「求められる資質・能力を教育課程において明確化し育むこと」「地域の人的・物的資源を活用すること」を重要視している。それは、「令和の日本型学校教育」の構築においても同様である。

そこで本校では、それらの実現のために、「学校で育てたい資質・能力の明確化と具現化」「学校と地域との目標の共有化」に向けた取組を進めている。

## 2 育てたい資質・能力の明確化と具現化

### (1) 「本校の育てたい子どもの力」の作成

学校で育てたい資質・能力を地域社会と共有していくためには、地域の方々にとっても分かりやすいものであることが重要である。

そこで、今年度の重点教育目標を具体化した「本校で育てたい子どもの力」（以後「育てたい力」）を1学期のはじめに教職員に提示するとともに、学校運営協議会での説明や学校だより・学校HP・町広報紙などを活用し、地域の方々に広く伝えた。

また、提示に当たっては、客観的な根拠（学校評価、全国学力・学習状況調査結果など）を明らかにするとともに、未来の社会を生きる子どもたちに必ず必要となる資質・能力であることを強調した。

### (2) 「育てたい子どもの力」を高める取組

本校の「育てたい力」を地域社会と共有化を図るために、日頃の教育活動を通して明らかにすることが必要不可欠である。

そこで、「《育てたい子どもの力》の実現のために」を作成し、日常の授業や学校行事、委員会活動など、具体的な活動場面ごとに目指す子どもの姿として明示した。このようにして、日常の指導の中で、教職員が強い意識をもって実践できるように促した。

**令和3年度 苫前小学校 学校経営基本構**

**【重点教育目標】**  
「自ら考え、目標をもって挑戦する子」の育成

**《本校の育てたい子どもの力》**

- ①自分で考える力  
具体像：自分で決める・自分の言葉で表現する  
・自ら課題意識をもつ
- ②仲間と意見を交わし、自分や仲間の課題を解決していく力  
具体像：友だちの話を聞き、自分の考えをもつ  
・目的をはっきりさせ話し合う

**《育てたい子どもの力》の実現のために**

**《本校の育てたい子どもの力》**

- ①自分で考える力  
具体像：自分で決める・自分の言葉で表現する・自ら課題意識をもつ
- ②仲間と意見を交わし、自分や仲間と課題を解決していく力  
具体像：友だちの話を聞き、自分の考えをもつ・目的をはっきりさせ話し合う

育てたい力	日頃の授業	学校行事・委員会活動
自分で考える力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を見付け、解決の見通しをもとうとする。</li> <li>・自分の考えを自分の言葉で表現（話す・書く）する。</li> <li>・自分なりの方法で調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や先生の指示を待つのではなく、自分なりの課題意識をもつ。</li> <li>・自分なりの課題解決の方法を編み出す。</li> <li>・自分の考えを表現する。（書く、話す）</li> </ul>
自分や仲間と課題を解決していく力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見聞き取り、自分の意見と比べる。</li> <li>・話し合い、追究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見聞き取り、自分の考えと比べる。</li> <li>・話し合い、よりよい解決の方法を探る。</li> </ul>

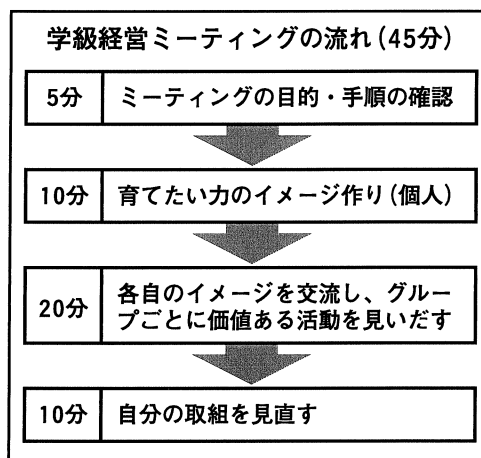
### (3) 教職員の主体的な実践を求めて

「育てたい力」の向上に向けた取組を一層前進させるためには、教職員の意識が児童の学びの起点である学級経営に浸透していることが重要である。

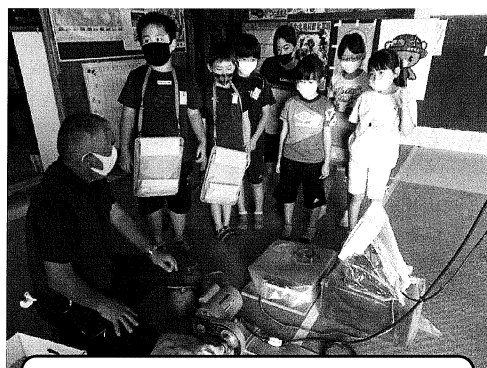
そこで、2学期のはじめにワークショップ型の「学級経営ミーティング」を実施した。はじめに校長がミーティングの目的（ゴール）と手順を確認した後、学級担任が「育てたい力」を意識した実践のイメージを具体化した。さらに、互いのイメージを交流し、より価値ある活動をグループごとに見出し発表した。そして、最後に、それらを踏まえて、自分自身の学級経営における具体的な取組を見直し、2学期の重点的な取組として位置付けた。

このミーティングを通して、教職員は「育てたい力」を高める活動を自ら考えることによって、主体的に取り組む意識が確実に高まってきた。

学級経営の見直し案では、「自分の考えを説明する場面を多く設定する。」「学芸会の劇の指導では、子ども一人一人が登場人物の考えなどを十分に想像させて、表現に生かしていく。」「『自分の考えメモ』をもたせ、常に自分の考えを表現できるようにする。」など、次々と「育てたい力」を高めるための取組が創り出され、日々の授業や学級活動で実践化された。



学級経営ミーティングのグループ協議では、自由な雰囲気です話し合い、互いのよさを自分の学級経営に生かそうとしていた。



地域での体験学習においては、地域の方々には子どもの考えを積極的に引き出すようなご指導をいただいた。

### 3 地域学習における「育てたい力」の共有に向けた取組

本校の「育てたい力」を地域社会と共有化するためには、地域の方々と直接関わり合い、協力し合いながら学びを深める学習において実現を図っていくことが重要である。

本町では、地域学校協働活動として、全学年で年間50回近くの農業や漁業、伝統芸能など、地域を舞台とした学習活動を進めている。

そこで、学校運営協議会での説明や学校行事などにおける地域の方々の学校訪問時を捉えて、「育てたい力」についてお話をさせていただき、理解を得る機会を意図的に設定してきた。

そのことによって、ご指導いただいた地域の方々には、児童の考えを引き出したり、協力しながら活動したりする場面を多く設定していただくなど、地域の理解と協力により、本校の「育てたい力」を高める取組は、着実に前に進んでいる。

### 4 おわりに

本実践は、「社会に開かれた教育課程」の実現を図るために、学校が目指す資質・能力を地域社会と共有化する取組の第一歩である。「本校の育てたい子どもの力」を教育活動において具現化するためには、校長の推進力や実行力が重要であると考えます。また、地域社会との共有においては、発信力が必要不可欠である。そのためにも、地域・保護者、そして教職員から信頼される校長であるよう一層研鑽を積み、今後も努力を続けていきたい。